



コロナ禍を乗り越え進化した 成城大学ピアサポート活動の歩みを振り返る

成城大学 筒井陽加里、鈴木由乃、大村真樹、中谷彰宏、山中啓也（ピアサポーター）
肥田奈緒子（教育イノベーションセンター）

ピアサポーターとは

設立：2017年4月

コンセプト：「学生同士の『学び合い』の促進」

目標：教職学協働を基本理念とし、教員・職員・学生が協力しあい、よりよい大学にする

学生が学生の学習アドバイスや学習サポート等を行う団体であり、有志の学部生・大学院生により構成されている。ファシリテーションスキルやコーチングスキルなどの養成研修を受講した上で各活動に参加している。



コロナ禍における活動

新型コロナウイルスの流行と収束に伴うキャンパス環境の大きな変容があった数年間、この過渡期に成城大学ピアサポーターは活動を止めずに学習サポートを継続した。

今回は、ピアサポーターが主催するイベントの中から、コロナ禍で開催形式を変えながらも、サポーターが学生の視点に立って企画し、最も多くの参加者を集めたイベントとして、**時間割相談会**を主要な事例として取り上げるとともに、コロナ禍からアフターコロナに至る、3年間の活動を振り返る。

時間割相談会

昨年度に続いて「完全オンライン」開催

○ ZOOM開催

1日に複数回の相談時間を設け、接続してもらう形式。他の人の質問や回答が聞ける空間となるため、1つの質問で多くの人の悩み解決にも導けた

○ 回答者の確保

ピアサポーター以外の学生も回答者に加わり、同じ学部の先輩に相談しやすく！

△ すれ違い

相談者が抱えている悩みが分からないイベント開催の情報が行き届かない

参加者
274名



コロナ禍
2021

初めての「ハイフレックス」開催

○ 基礎完成

ハイフレックス・対面の両方の流れを一通り体験し、次年度以降も活用できる知識に

○ SNSでの配信

SNSを通じて質問の対応を行ったり、会場までの道順等を配信したり、新入生に開催情報をお届け

○ 回答者の研修

事前に相談対応のロールプレイを行い、1人でも多くの相談に乗れるよう準備

○ 悩みの把握

受付用紙に相談内容を事前記入してもらい、対応準備が可能に！

△ 初歩的な質問

履修制度に関する初歩的な質問が多く、個別の質問にたどりつかなかった

△ パンク

相談者に対して回答者が少なく、相談対応しきれない日があった

参加者
509名

過渡期
2022

コロナ後初の「完全対面」開催

○ 履修セミナー

新入生共通の初歩的な困りごとを、セミナー形式でスバツと解決！

○ 回答者増員

サポーター学生以外の学生の協力を得て、回答者を増員！

○ 個別相談

履修セミナーを踏まえ初歩的な質問が減った。充実した個別相談を実施！

△ 具体的な質問

初歩的な悩みが解決！でも回答者の想定を越えた質問が増えた...

△ 他学部フォロー

学部ごとに回答者数の偏りがあり忙しさに差があった



セミナー+個別
1003名+626名

アフターコロナ
2023

その他の活動

学習サポート活動の多様化

● 授業サポート

教員からの申請をもとに、ピアサポーターが授業の補助活動を行う「授業サポート」。オンライン授業下において、ファシリテーターの需要が急増し、サポート活動の枠が拡大。

● サポートデスクの運用

団体の設立当初から学生の学習支援を実施。現在は活動拠点「ピアサポートルーム」に相談対応者が常駐し、学生の学習相談に対応している。



● 入学準備プログラムの開催

早期合格した入学予定者を対象に開催。大学入学にあたっての不安の解消や友達作りを目的として、**教職学協働**でグループワークを中心としたセミナーを開催している。

広報・制作活動の本格化

コロナ禍によって、大学の情報をうまく取得できない学生が多く発生。以前より運用していたSNSアカウントの運用を本格化し、情報発信を拡大化。また、イベントやSNS、ホームページ等に掲載する動画やポスター等、各種制作活動を本格化。

各種SNSとHP
QRコード



ピア
ホームページ



X(旧Twitter)



Instagram

まとめ

先行き不透明なコロナ禍においてピアサポーター自身も大学生活に対する大きな不安を抱いていたからこそ、サポート活動への高いモチベーションを維持できた。精力的な活動の継続により活動の幅が広がり、メンバー各自のスキル向上、ピアサポーターの認知度及び信頼度の上昇に繋げることができた。

今後の展望

時間割相談会は2018年度から実施しており、新入生支援イベントとして成熟しつつあるが、回答者の献身によって成り立っている部分が多い。サポーター学生に負担がかかりすぎない形を模索しながら、時間割相談会を通じて培った新入生との信頼関係をもとに、学生目線での継続的な学習支援を目指したい。